

特別支援学級を担当する方のための 4ステップ(プラス1)ガイドブック

特別支援学級担当の先輩教諭からの4つのアドバイス

「特別支援学級を担当する方のための4ステップガイドブック」は、特別支援学級担当教員の授業準備等を支援するリーダー的な教員の育成を目的に開催した「特別支援学級担当教員リーダー研究協議会」における協議の成果をもとに、平成25年度は主に小学校の担当者向けの内容を作成しました。平成26年度は中学校の担当者向けの内容を加え「平成26年度版特別支援学級を担当する方のための4ステップ(プラス1)ガイドブック」(以下、「4ステップ(プラス1)」)というとして作成しました。

「4ステップ(プラス1)」は、特別支援学級の担当経験が少ない方が、戸惑うことなく、指導や支援を始めるために必要となる専門性を、「実態把握の実施」「指導計画の作成」「教育課程の編成」「教材・教具の作成」の4つの章(ステップ)に分けて提示しました。それぞれのステップについて、「1 基本的な考え方」「2 ポイント整理」「3 事例紹介」で解説しています。

また、4ステップに加え、小・中学校での指導の充実のためのプラス1として、「進路指導」について解説しています。

「4ステップ(プラス1)」を特別支援学級に在籍する児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた指導や支援の充実を図るために御活用ください。

ステップ1

第1章 実態把握の実施～児童生徒を理解するために～

ステップ2

第2章 指導計画の作成～個別の指導計画を作成するために～

ステップ3

第3章 教育課程の編成～特別の教育課程を編成するために～

ステップ4

第4章 教材・教具の作成～授業の準備をするために～

プラス1

進路指導

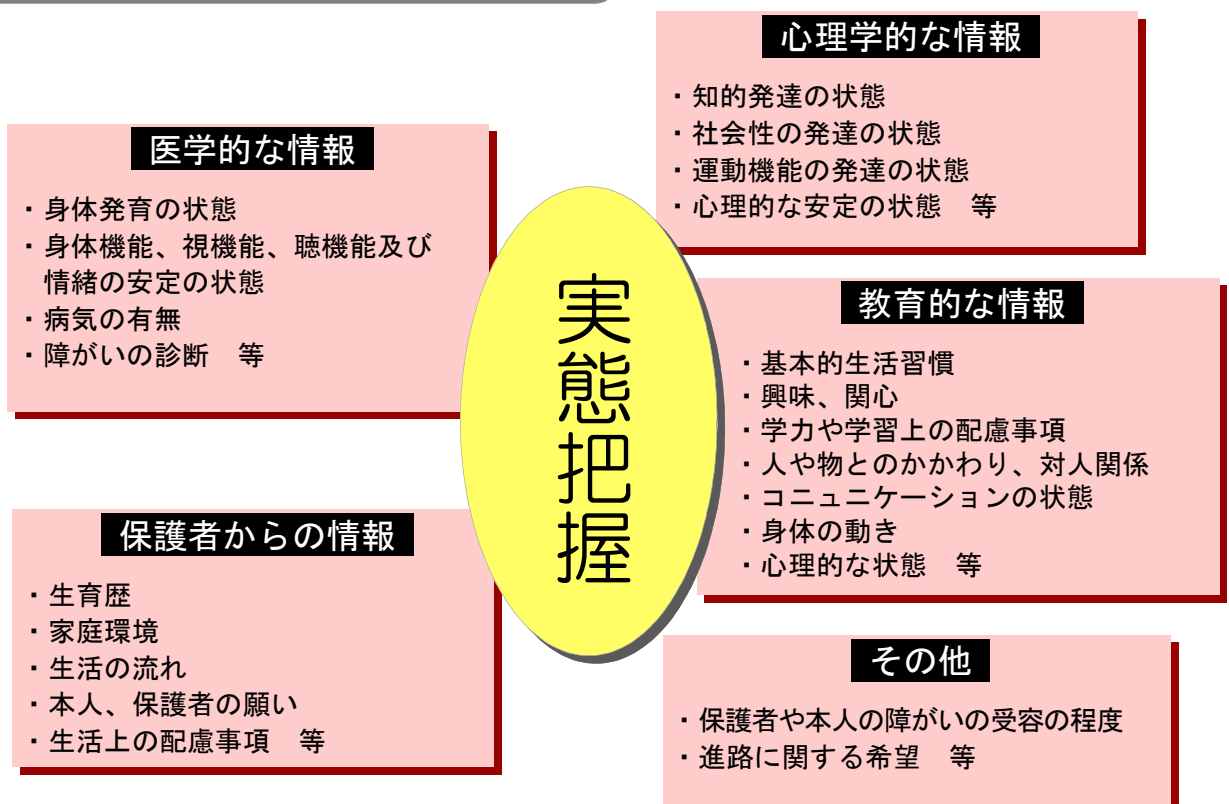
～児童生徒の実態に応じた適切な進路指導を行うために～

第1章 実態把握の実施～児童生徒を理解するために～

1 基本的な考え方

児童生徒の障がいの状態は一人一人異なっており、多様であることから、一人一人の教育的ニーズに応じた指導内容や指導方法の工夫が必要となります。そのためには、的確な実態把握が求められます。実態把握に当たっては、指導や支援に必要な情報を収集し、個別の指導計画の目標設定に向けて情報を整理することが大切です。

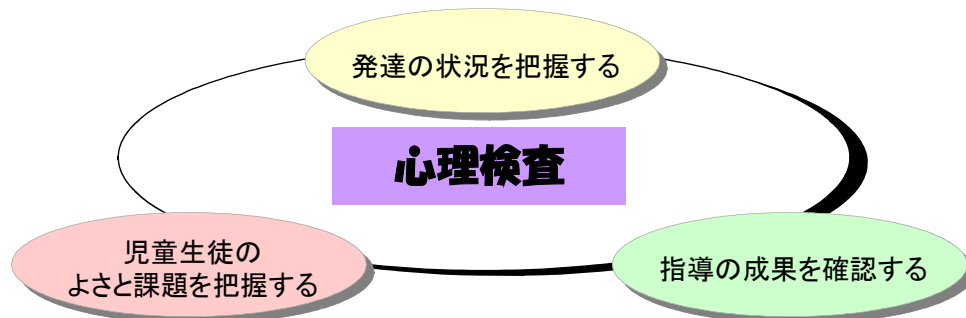
2 ポイント整理



ワンポイント 心理検査を実態把握に生かそう

心理検査とは

一人一人の現在の発達の状況(偏り、遅れなど)、性格・行動特性などの心理学的な特性を客観的にとらえるために、心理学的方法論に基づいて作成された道具です。



3 事例紹介(小学校)

学習や生活の様子を記録し、実態把握を行う場合には、次のような方法が考えられます。

平成〇〇年度 個別の指導計画

(H△△. △. △ 作成) 担任名 ● ● ● ●

氏名	〇 〇 〇 〇	〇年 〇組	
	児童の状況	1年間の目標	
各教科等	国語	<ul style="list-style-type: none"> 〇 書くことに高い興味を示す。 〇 平仮名はほぼ全部、漢字や数字、曜日の読み・書きができる。しかし、読み書きした文字の意味を理解していないことがある。 〇 聞こえに課題があるのか、言葉の発達に課題があるのか不明ではあるが、「れ」と「で」、「ら」と「だ」等、発音を間違えることがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 〇 文字を指さしながら、一人で絵本を読むことができる。
	算数	<ul style="list-style-type: none"> 〇 具体物を見て、3まで数えることができる。 〇 指で1対1対応しながら行くと、100までの数唱ができる。 〇 時計に興味があり、正午は分かる。 〇 ゲーム的活動を非常に好む。 	<ul style="list-style-type: none"> 〇 10までの数詞と数唱を一致させることができる。
	自立	<ul style="list-style-type: none"> 〇 直立での姿勢保持が苦手であり、すぐ壁等に寄りかかる。また、片手を床や机につけて作業することが多い。 〇 箸を正しくもつことができない。 〇 シャツがズボンから出ていることが多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 〇 モデルを見て、活動に必要な身体の動きを身に付けることができる。
対人関係 コミュニケーション 行動特性 認知特性	<ul style="list-style-type: none"> 〇 故意に相手の嫌がる行動をとり、相手の反応をみることがある。 〇 好きな人(物)を凝視したり、自分からかわりを求めたりすることが多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 〇 自分の思いを言葉や態度で伝えることができる。 	
評価			

個別の指導計画

年組	〇年 〇組	氏名		担任	
作成年月日		①平成 年 月 日()			
		②平成 年 月 日()			
		③平成 年 月 日()			

現在の児童の実態		保護者の考えや願い
学習面	<ul style="list-style-type: none"> 〇 当該学年の学習内容を理解することができる。 〇 問題文の意味が分からないときがあるが、説明すると理解できる。 〇 文字を書くことが苦手である。 	<ul style="list-style-type: none"> 〇 楽しく学校へ行ってほしい。 〇 暴言などがなくなってほしい。 〇 いずれは普通高校へ通わせたいので、中学校で在籍変更ができるというと考えている。
生活・行動面	<ul style="list-style-type: none"> 〇 午後からの授業では、疲れると寝転がることもある。 〇 やらなければならないという思いとやりたくないという自分の気持ちのバランスを取ることが難しく、暴言を発したり、暴力を振るうことがある。 	
対人関係・社会性	<ul style="list-style-type: none"> 〇 いらいらすと暴言を発したり、暴力を振るったりし、相手が謝るまでやめられない。 〇 他人と比較し「俺はだめだ」と必要以上に落ち込んでしまう。 	
諸検査の結果等	広汎性発達障害(小学校第1学年)	



必要な支援

<ul style="list-style-type: none"> 〇 文章の読解、書字版への配慮・支援 〇 自己肯定感の向上
--



長期目標

<ul style="list-style-type: none"> 〇 自分の気持ちを言葉で伝えたり、相手の気持ちを考慮して適切な行動をとったりすることができる。

児童生徒のよさをとらえ、指導に生かす

一人一人の児童生徒の個性を生かし発達を促す教育の充実を図る観点から、個々の児童生徒の

- ・よさ
- ・持ち味
- ・可能性
- ・その子らしさ

等に着目し、児童生徒が学習活動に主体的に取り組めるようにする教育的支援が求められています。

児童生徒の「よさ」を把握する際は、

- ①興味・関心や願いなどの情意的な側面
- ②個人内において発達の進んでいる側面
- ③発想や想像力などの思考の側面
- ④課題達成のための取り組み方などの行動の側面

など、様々な観点が挙げられます。

3 事例紹介(中学校)

学習や生活の様子を記録し、実態把握を行う場合には、次のような方法が考えられます。

平成〇〇年度 実態把握シート (個別の指導計画1) (H△△, △, △ 作成) 担任名 ●●●●

氏名		◇◇◇◇		■年■組	
		生徒の状況		1年間の目標	
各教科等	国語	○ 小学校3年生程度の漢字の読み書きができる。 ○ 質問されたことに、積極的に答えようとするができる。 ○ 簡単な指示内容を理解して行動できる。 △ 語彙が不足しており、自分の気持ちを十分に説明できないことがある。		● バス停や食品の表示など、身の回りにある漢字の読み書きができる。 ● 文字や写真を使った手紙のやりとりをすることができる。	
	数学	○ 財布から、指定された金額の金銭を出すことができる。 ○ 電卓を使い、3桁程度の加減乗除の計算の答えを出すことができる。 △ 数と量の関係や、金銭の両替の仕方を理解することが難しい。		● バスの料金表を確認し、料金を払うことができる。 ● 店で電卓を使い、持参金を越えない範囲で買い物をするすることができる。	
	自立活動	○ 着替えや洗面、入浴などは自立している。 △ 場に応じた伝え方が分からず、相手に自分の意図を気付いてもらおうとすることがある。		● 作業学習の際、報告や連絡、相談を自分から相手に伝えることができる。	
対人関係 コミュニケーション 行動特性 認知特性		○ 出会った人に自分から挨拶することができる。 △ 急に質問されると、内容が分からなくなり、答えに困ってしまうことがある。 △ 身だしなみが乱れていても、声をかけられないと気が付かないことがある。		● 着替えやトイレのあと、自分で鏡を見て身だしなみを確認できる。	
評価					

○…得意なこと、本人のよさ △…苦手なこと

氏名	学年・組	中学校第〇学年	作成日	〇年〇月〇日
実態把握	学習面 ○ 文章を読んで内容を理解することが得意である。 ○ パソコンが得意で、漢字を使った長い文章を入力したり、表やグラフを作成したりすることができる。 △ 話しかけられたことを忘れてしまうことがある。			
	生活面 ○ 周りの人の様子を見て、仕事を手伝ったり、次の活動の内容を友だちに教えてあげたりすることができる。 △ 相手の気持ちに気付かずに、思ったことをそのまま話してしまうことがある。			
長期目標	その他 WISC-Ⅲ IQ〇〇(〇年〇月〇日 児童相談所で実施) 礼儀正しく人とかかわりながら、協力して仕事を行うことができる。			
短期目標	場面	○指導内容・指導方法		評価
・技術・家庭の時間、保健室から洗濯物を回収し、友だちと協力しながら洗濯をし、きれいにした物を届けることができる。	自立活動	○マナーチェックシートの活用 ・保健室での入退出の仕方や、話し方などを事前に教室で練習するとともに、チェックシートで自己評価する。		・ノックの回数や、敬語の使い方などのマナーが身に付き、職員室に入るときなど自分から使うようになってきた。 ・友だちが分かりやすいよう、写真の撮り方や説明の言葉を工夫するようになった。 ・友だちにほめられたことで、より丁寧に洗濯物をたたもうとするようになった。 ・友だちの様子をよく見るようになり、自分から確認の声を掛けることが増えるようになった。
	国語	○洗濯の手順書の作成 ・洗濯の手順や作業のコツをまとめた手順書をパソコンで作成し、友だちに配布する。 ○友だちのよさを伝え合う ・手分けをして洗濯やアイロン掛けを行い、作業中の友だちのよさを認め合えるように、お互いの振り返りカードに記入する。		
	技術・家庭			

児童生徒の心情を理解するように努め、指導に生かす

児童生徒は、一人一人違うという考え方に基づき、児童生徒の教育的ニーズを把握し、必要な支援を検討する際は、障がいや発達の状態を踏まえつつ、本人の心情を理解する姿勢をもつことが大切です。

そのためには、

- ・児童生徒が心を開いて話せる雰囲気をつくる
- ・相互の信頼関係を築く
- ・児童生徒の話に十分に耳を傾ける
- ・児童生徒に不安を与えないなどに配慮する必要があります。

第2章 指導計画の作成

～個別の指導計画を作成するために～

1 基本的な考え方

児童生徒の障がいの状態や発達段階、特性等は一人一人異なっており、多様であることから、個々の児童生徒の実態に即した指導を行うことが必要となります。そのためには、一人一人の児童生徒の指導目標、内容、方法、評価の観点等を明らかにした個別の指導計画を作成することが必要となります。

2 ポイント整理

個別の指導計画は、一人一人の児童生徒の実態や目標に関連して、学校生活全体をとおして指導すべき内容を設定します。特に、児童生徒一人一人が意欲的、主体的に活動できるように具体的に設定、記述する必要があります。

指導内容を設定する際のPOINT

- ① 一人一人の児童生徒のよさ(興味・関心や学習への取り組み方等)を生かす工夫
→ 児童生徒の興味から出発し、広がりを生むようにする。
- ② 児童生徒の発達の状況や生活年齢に合わせ、指導内容を工夫
→ 児童生徒の発達の状況、学年、年齢に応じて内容を修正する。
- ③ 意欲や自発性が発揮でき、成就感を得られるための工夫
→ 分かったこと、できたことが明確で、次の学習への意欲につながる。
- ④ 日常生活に密着した内容となるよう工夫
→ 生活場面において、身近でイメージしやすいもの、親しみやすい身の回りにあるものを活用する。

指導方法を設定する際のPOINT

- ① 教材・教具の工夫
→ どのような教材・教具を使用するか、どのように補助具を工夫するのかを検討する。
- ② 学習集団の構成の工夫
→ どのような集団構成の中で学習するか(大集団、小集団、構成メンバー等に配慮)、個別の指導で行うことが効果的かについて検討する。
- ③ 支援の工夫
→ 教師がどのような働きかけ、支援を行うかを検討する。(介助、演示、言葉かけ、教具の提示等)
- ④ 指導体制の工夫
→ TT(チーム・ティーチング)などの複数指導の展開の必要性や担当者について検討する。
- ⑤ 学習環境の設置の工夫
→ 場所は教室か屋外か、提示物や教材・教具をどのように配置するかを検討する。
- ⑥ 見通しをもたせる工夫
→ 学習過程がどの程度進んでいるかを表などで示す。
- ⑦ 児童生徒が取り組みやすい方法の工夫
→ 児童生徒が得意とする課題解決の方法や取り組みやすい方法を生かす。
- ⑧ 学習の成果が分かるようにする工夫
→ グラフや数値などで成果を視覚的に分かりやすく表現する。
- ⑨ 地域の資源を活用する工夫
→ 地域の人材や材料等の活用を検討する。
- ⑩ 教師の特技を生かす工夫
→ 教師の特技や得意分野等を生かした指導方法を検討する。

3 事例紹介(小学校)

平成〇〇年度 個別の指導計画 II (年間個人目標)

平成〇〇年〇月作成

学年	氏名
<p>< 長期的目標 (2年間) ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎基本の定着 (読み・書き・数概念、等) を図り、生活に生かすことができる。 ・基本的な生活習慣を身に付け、自分で取り組むことができる。 ・一人の身のまわりのみんなとかかわりながら、楽しい学校生活を送ってほしい。 <p>○ 年度の初めと後期の始めに作成する (2学期制の場合、前後期末に評価)。</p> <p>○ 保護者には、4月の家庭訪問と9月末の個別面談時に提示し、内容について共通理解を図る。</p>	
<p>目標 (1年間で達成したい目標)</p>	
生活	<p>< 食 事 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・味や食感が自分の好みと合っていない物でも、触めに応じて口にすることが出来る。 <p>・言葉かけをして促すとともに食べやすいように小さくする等の配慮を行う。(給食)</p> <p>・言葉かけをして促すとともに食べやすいよう配慮する。</p>
学 習	<p>< 国 語 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・平仮名や片仮名、生活に身近な漢字の読み方・書き方を覚えて、生活に生かすことができる。 ・覚えた助詞や文法などを用いて、5文以上以上の文を考え、実際にあった出来事や自分の気持ちなどを表現することができる。 <p>< 算 数 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・5の合成と分解を理解し、具体物を用いなくても問題に答えることができる。 ・10の合成と分解を理解し、具体物を使って問題に答えたり、具体物を用いなくても合わせて10になる数字の組み合わせを答えたりすることができる。 ・時計の読み方を覚え、生活に生かすことができる。 <p>・興味・関心を引き出すような言葉かけを行うとともに、書字するときの大事なポイントを分かりやすく伝え、児童が意識して取り組むことができるように指導していく。(国語)</p> <p>・「話して伝えたい」、「書いて伝えたい」という気持ちを大切に、児童からの言葉を引き出すような言葉かけを行う。(国語)</p> <p>・ゲーム感覚で楽しんで取り組むことができるような教材を選択し、繰り返し取り組む。(算数)</p> <p>・具体物を用いる等、視覚的にも分かりやすい教材を使用する。ゲーム感覚で楽しんで取り組むことができるように教材等を工夫し、繰り返し取り組む。(算数)</p> <p>・〇時、〇時半など段階的に進める。生活と関連させながら取り組む。(算数・日常生活)</p>
評 価	

記入のポイント

- ① 学年相応の教科等が学習できる場合
→ 学習指導要領に基づき、当該学年の目標を設定する。
- ② 学年相応の教科等の学習が困難な場合
→ 児童が身に付けることが必要な力に焦点を絞った具体的な目標を設定する。
- ③ 児童の活動から、適切に評価することができる項目を具体的に設定する。
- ④ 目標の数は各教科2～3個程度に設定する。

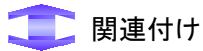
ワンポイント 評価の視点と留意点

学習の成果に対する評価の視点

- <知識> 何が理解できたか
- <技能> 何ができるようになったか
- <態度> どのように取り組んだか
- <習慣> 何が習慣として身に付き、生活に生かされるようになったか 等

評価の留意点

- 指導計画の指導目標に合わせて評価
- 目標に対応し、具体的で客観性のある評価
- 学習過程における取り組み方や意欲など情意面を重視



指導に対する評価の視点

- 課題の内容や量の適切性
- 教育内容の選択の適切性
- 指導の手順や支援の工夫の適切性
- ティーム・ティーチングの計画・実施の状況
- 保護者との連携、協力の状況 等

- 個別の指導計画の評価については、可能な限り保護者に伝え、学習の成果と課題について共通理解を図るとともに家庭と連携を図ることが大切です。
- 通知表を作成する際にも、上記の「学習の成果に対する評価の視点」を活用することができます。

3 事例紹介(中学校)

平成〇〇年度 個別の指導計画

平成〇〇年〇月作成

第 学年	氏 名	
	<p><長期目標(3年間)></p> <ul style="list-style-type: none"> 公共交通機関を利用し、一人で目的地まで移動することができる。 自分の気持ちを大人に相談することができる。 <p><保護者の願い></p> <ul style="list-style-type: none"> 洗濯や掃除など、一人で行えるようになる。 買い物や料金の支払いなどの金銭の扱いができる。 心配なことがあったとき、大人に相談することができる。 <p><進路希望(保護者)></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 高校段階 <ul style="list-style-type: none"> 〇〇高等支援学校環境・流通サポート科に進学し、働く力を身に付けさせたい。 ○ 高校段階卒業後 <ul style="list-style-type: none"> 地元で就職し、親元を離れ、一人で生活できるようにさせたい。 	
	<p>目標(1年間で達成したい目標)</p> <p><基本的な生活習慣></p> <ul style="list-style-type: none"> 衣服を清潔に保つことができる。 <p><対人関係・社会性></p> <ul style="list-style-type: none"> 集団生活の中での役割を理解し、お互いに協力し合うことができる。 生活年齢に合った男女の人間関係やかわり方を身に付けることができる。 	<p>指導の手立てと指導場面(形態)</p> <ul style="list-style-type: none"> 実際に簡単な日常着を洗濯することができるように、洗濯用の器具の扱い方や洗剤の使い方を示した手順書を用意する。(技術・家庭) 友達同士教え合ったり、助け合ったりできるように、役割を分担して活動する場面を設定する。(社会及び作業学習) 自分の体の成長や男女の違いを理解し、適切なかわり方を身に付けることができるように、場面に応じた対応の仕方や、相談の仕方を実際に設定する。(保健体育)
生 活	<p>・掃除や片付けを行い、清潔に保つことができる。</p> <p><国語></p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の気持ちや意思などを、感情を表す言葉を使い、伝えることができる。 <p><数学></p> <ul style="list-style-type: none"> 現金を適切に出したり、お釣りをきちんと数えて受け取ったりできる。 	<p>・実際に簡単な日常着を洗濯することができるように、洗濯用の器具の扱い方や洗剤の使い方を示した手順書を用意する。(技術・家庭)</p> <p>・友達同士教え合ったり、助け合ったりできるように、役割を分担して活動する場面を設定する。(社会及び作業学習)</p> <p>・自分の体の成長や男女の違いを理解し、適切なかわり方を身に付けることができるように、場面に応じた対応の仕方や、相談の仕方を実際に設定する。(保健体育)</p>
学 習	<p>・掃除や片付けを行い、清潔に保つことができる。</p> <p><国語></p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の気持ちや意思などを、感情を表す言葉を使い、伝えることができる。 <p><数学></p> <ul style="list-style-type: none"> 現金を適切に出したり、お釣りをきちんと数えて受け取ったりできる。 	<p>・実際に簡単な日常着を洗濯することができるように、洗濯用の器具の扱い方や洗剤の使い方を示した手順書を用意する。(技術・家庭)</p> <p>・友達同士教え合ったり、助け合ったりできるように、役割を分担して活動する場面を設定する。(社会及び作業学習)</p> <p>・自分の体の成長や男女の違いを理解し、適切なかわり方を身に付けることができるように、場面に応じた対応の仕方や、相談の仕方を実際に設定する。(保健体育)</p>
評 価		

個別の指導計画の他の様式については、本ガイドブック18ページ記載の「校内研修プログラム」Ⅱ-1「個別の指導計画の作成」が参考になります。

進路については、中学校入学後の早い段階から、保護者と定期的に相談し、指導の目標や内容に反映させます。

個々の生徒が、活動しやすいように自ら環境を整えたり、必要に応じて周囲の人に支援を求めたりすることができるような指導内容を計画的に取り上げます。

生徒が興味をもって主体的に取り組み、成就感を味わうとともに、自己を肯定的にとらえることができるような指導内容を取り上げます。

ワンポイント 指導目標の優先順位

指導目標の設定に当たっては、「児童生徒のよさ」や「保護者の願い」を考慮しながら、次の3点を考慮し、優先順位を決めていきます。

<p>必要性</p> <p>子どもの将来の生活を見通して、現在何が必要か</p>	<p>達成可能性</p> <p>一定期間の指導によって目標が達成できる可能性があるか</p>	<p>適時性</p> <p>今、指導することが必要か</p>
---	---	---------------------------------------

(参考：北海道立特殊教育センター「個別の指導計画『AtoZ』」平成13年3月)

特に、中学校では、高等学校や、高等学校卒業後の進路を見据えながら指導目標を設定し、優先順位を付けていくことが大切です。

- 個別の指導計画を作成する際は、学級担任が一人で悩まず、校内の先生方とアイデアを出し合ったり、保護者に相談したりすることが有効です。
- 特に中学校では、本人や保護者の進路希望をもとに、進路先の学校や就職先などを実際に見学した結果等を踏まえ、指導の目標や内容を検討することが大切です。

第3章 教育課程の編成

～特別の教育課程を編成するために～

1 基本的な考え方

特別支援学級は、学校教育法第81条第2項の規定による障がいのある児童生徒を対象とする学級であるため、対象となる児童生徒の障がいの種類、程度によっては、小学校又は中学校の教育課程をそのまま適用することが必ずしも適当でない場合があります。そのため、学校教育法施行規則第138条において、「特に必要がある場合には、特別の教育課程によることができる」と規定されています。

特別支援学級では、法令や学習指導要領に基づき、児童生徒の障がいの状態、発達の程度、地域や学校の実情などを考慮しながら、教育課程を創意工夫して編成することが大切です。

2 ポイント整理

特別支援学級の教育課程編成の特例

学校教育法施行規則第138条

小学校若しくは中学校又は中等教育学校の前期課程における特別支援学級に係る教育課程については、特に必要がある場合は、第50条第1項、第51条及び第52条の規定並びに第72条から第74条までの規定にかかわらず、特別の教育課程によることができる。

特別の教育課程を編成する場合には、学級の実態や児童生徒の障害の程度等を考慮の上、実状に合った教育課程を編成することができます。

- ① **各教科の内容** → 下学年や特別支援学校(知的障がい)の各教科の目標及び内容に替えることなどができる。
- ② **時数の取扱い** → 授業の1単位時間など弾力的な取り扱いができる。
- ③ **各教科等を合わせた授業** → いわゆる領域・教科を合わせた指導ができる。
- ④ **自立活動の指導** → 自立活動の指導ができる。
- ⑤ **教科用図書** → 児童生徒の実態等に即して、下学年用の検定教科用図書など、適切な教科用図書を使用できる。

特別の教育課程を編成する場合には、以下の点に留意する必要があります。

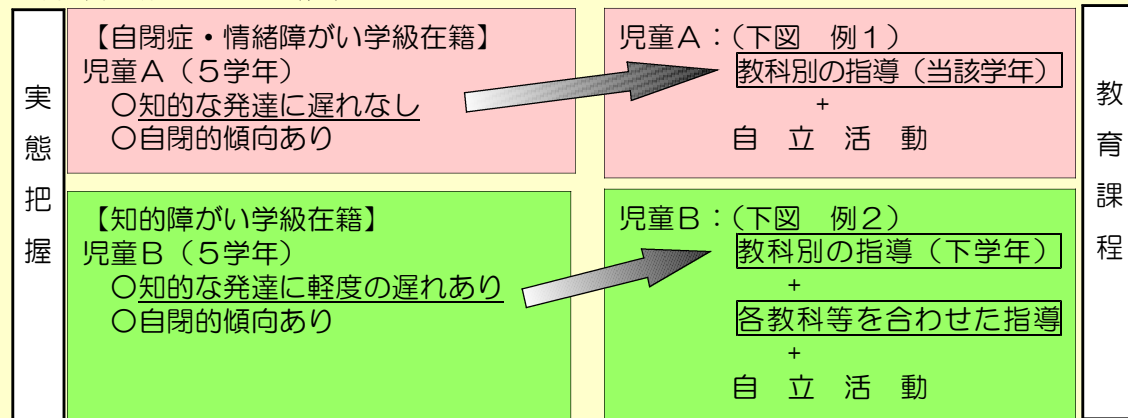
- ① 児童生徒一人一人の障がいの状態を的確に把握する。
- ② 学級の状況(在籍数や学年の幅)を考慮する。
- ③ 特別支援学校の学習指導要領の内容をどの程度取り入れるかを検討する。
- ④ 児童生徒の実態に応じた交流及び共同学習の実施について検討する。

ワンポイント 教育課程の届出

特別支援学級において、特別の教育課程を編成する場合は、学校として、設置者である、市町村教育委員会に届け出たり、承認を得たりする必要があります。

3 事例紹介(小学校)

教育課程編成の流れ(例)



教育課程(週時程)例1

A 自閉症・情緒障がい特別支援学級

	月	火	水	木	金
1	算数	国語	算数	国語	理科
2	図工	社会	家庭科 国語	社会	算数
3	家庭科	理科	国語	体育	社会
4	算数	算数	外国語活動		音楽
5	体育	図工	特別活動	理科	自立活動
6	道徳	自立活動		国語	特別活動

知的発達の遅れがないので、当該学年の教科等と自立活動により教育課程を編成しています。

解説

- 自立活動の時間を設定する場合には、発達の状態や学習の習得状況を踏まえ、各教科の指導時数のバランスを考える必要があります。本事例では、国語を1時間減らし、総時間数を1時間増やして、自立活動の時間を2時間に設定しています。

教育課程(週時程)例2

B 知的障がい特別支援学級

	月	火	水	木	金
	日常生活の指導				
	自立活動				
2	国語	算数	国語	算数	国語
3	生活単元学習	生活単元学習	生活単元学習	体育	音楽
4					
5	体育	図工	特別活動	生活単元学習	自立活動
6					特別活動

知的発達の遅れがある児童の学習特性から、教科等を合わせた指導である日常生活の指導や生活単元学習を行っています。

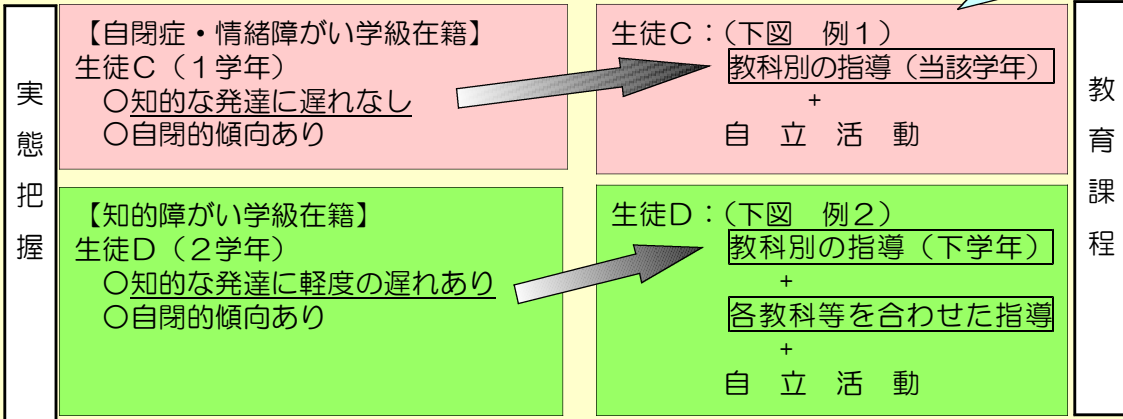
解説

- 身の回りの整理や身なりなどの基本的な生活習慣に関することは、毎日、繰り返し学習することが効果的であるため、日常生活の指導は毎日同じ時間に設定しています。
- 各教科の指導時間は、児童の発達の状態に合わせて適切に定めた後、教科単独で実施する場合と、内容によっては、生活単元学習などのように各教科等を合わせて指導するほうが効果的である場合があることに留意する必要があります。

3 事例紹介(中学校)

生徒Cには、高等学校への進学に対応した教育課程を編成しています。

教育課程編成の流れ(例)



教育課程(週時程)例1

A 自閉症・情緒障がい特別支援学級

	月	火	水	木	金
1	数学	理科	数学	国語	外国語
2	国語	社会	自立活動	外国語	数学
3	技術家庭	保健体育	国語	保健体育	美術
4	外国語	道徳	外国語	自立活動	音楽
5	保健体育	数学	総合的な学習の時間	理科	自立活動
6	自立活動	特別活動		技術家庭	社会

知的発達の遅れがないので、当該学年の教科等と自立活動により教育課程を編成しています。

解説

- 自立活動の時間を設定するために、本事例では、国語、社会、数学、理科を1時間ずつ減らし、自立活動の時間を4時間に設定しています。
- 自立活動の時間では、生徒Cの学力や社会性の向上を目指し、指導しています。

教育課程(週時程)例2

B 知的障がい特別支援学級

	月	火	水	木	金
1	国語	国語	数学	国語	数学
2	保健体育	外国語	国語	数学	国語
3		自立活動		保健体育	
4	作業学習	社会	作業学習	自立活動	作業学習
5	理科	生活単元学習	理科	生活単元学習	社会
6	美術		特別活動		音楽

知的発達の遅れがある生徒の学習特性から、教科等を合わせた指導である作業学習、生活単元学習を行っています。

解説

- 作業学習の時間は、製品の企画、材料の購入、木工製品づくりを行っています。また製品は学校祭で販売しています。
- 自立活動の時間は、生徒Dの社会性の向上に向け、「礼儀や挨拶に関すること」「公共のマナーに関すること」などを指導しています。

第4章 教材・教具の作成～授業の準備をするために～

1 基本的な考え方

特別支援学級においては、一人一人の児童生徒の主体的な学習を促し、基礎的・基本的な内容を確実に身に付けるようにするため、個々の障がいの状態等に応じた教材・教具を適切に活用する必要があります。

2 ポイント整理

① 教材・教具とは

- 児童生徒が指導目標を達成するために必要となる媒体となるもの。
- 学習課題にそって、教師と児童生徒との教授・学習の関係を深めるもの。
- 指導計画に基づいて、児童生徒の学習を効果的に進めるもの。

② 教材・教具を作製するときには

- 児童生徒一人一人の障がいの状態及び能力・適性等に即して創意工夫する。
- 児童生徒の発達の段階と指導目標に合わせて工夫する。
- 活用しながら改良するなど、児童生徒の発達の段階や学習課題に合わせて工夫する。

③ 教材・教具を準備するときには

- 児童生徒一人一人の発達の状況と学習の状況に即して準備する。
- 授業での働きかけや児童生徒の反応などを想定しながら準備する。
- 効果的に使用するための学習環境を整備する。

絵や写真、図を教室に掲示するときには

- ① 児童生徒が理解できるような表示をする。
- ② 見やすく、大きく、はっきり、簡潔に表示する。
- ③ 数、量、レイアウトを考えてバランスよく表示する。
- ④ 全体が明るい雰囲気になるように考えて表示する。

掲示物の作成上の配慮

- ① 1週間の学習予定を分かりやすく伝える。
- ② 1日の授業時間の区切りを分かりやすくする。
- ③ 学習活動で何をするのかを「見て分かる」ような手がかりを工夫する。

7ポイント 教材・教具の二つのはたらき

1 学習の動機付け、自発的な学習を促す

学習では、児童生徒が自発的に課題に取り組むことが重要ですが、自主的に学習を進めることが困難な場合が少なくありません。したがって、児童生徒が学習に取り組むきっかけをつくり、主体的な学習へ導くことが重要です。

2 系統性や構造的な学習を促し、学習の深化と効率化を図る

発達を援助するためには、児童生徒の発達の初期段階で必要となる学習から概念形成を広げる学習へと援助する取組が大切です。発達の初期段階においては、感覚器官の使い方や運動機能をコントロールするような活動を取り入れると効果的です。

3 事例紹介

学習環境の整備

学習するスペースと教材を置くスペースを分けています。



教室のレイアウト

自分で読むことができる平仮名で表記することで、児童自ら確認することができるようにしています。

にち 日	けつ 月	か 火	すい 水	もく 木	きん 金	ど 土
おやすみ	つたつてららら	わんつう 12 だんす	びあにかどれみ	びかひかそうじ	きんくもりもの	おやすみ

週間予定表

日課と学習内容を分かりやすく提示することで、次の活動を予測したり、見通したりすることができるようになり、スムーズに次の行動つながることを目的とした教材です。

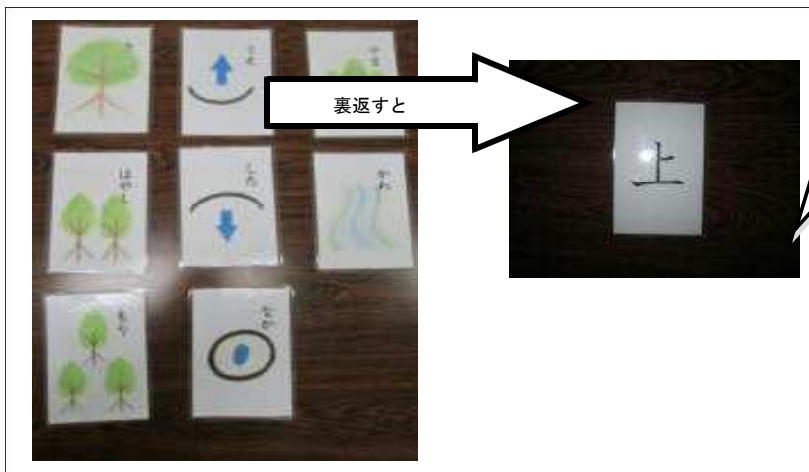


- 課題は、カラーボックスにスケジュールとリンクして教師が入れておく。
- ①から順（上から下）に課題に取り組み、終わったら『おわり』のカゴに入れる。
- ※ このような工夫により、学習への見通しがもてたり、取組が主体的になったりします。

日課や課題の提示

教科等

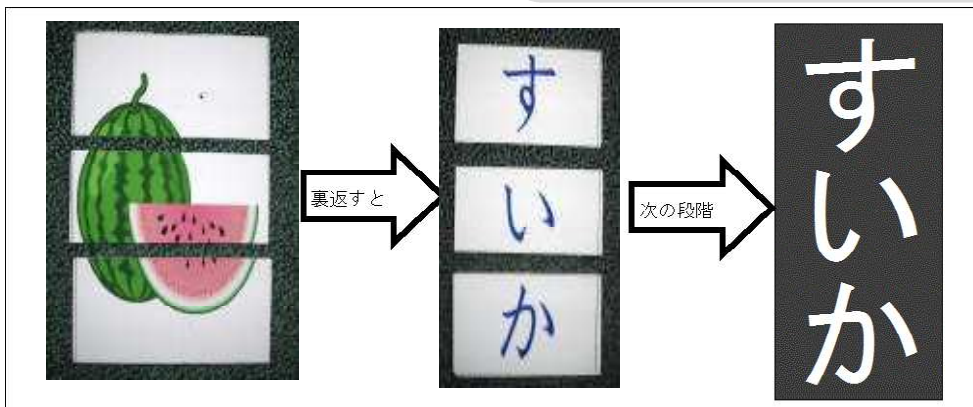
1 国語(文字の読み)



漢字と漢字をイメージできるイラストとを表裏に描いたカードを使い、漢字の読み書きの苦手な児童への指導に活用した教材です。

イメージと文字1

物の名称と分割標記した「す」「い」「か」の平仮名の音と表記を一致させるために活用した教材です。
次の段階では、「すいか」と単語を平仮名で標記したカードを読んだり、一枚の紙に書いたりする指導が考えられます。



イメージと文字2

2 算数(色、形、数の理解)(小学校低学年)



色と形の弁別



色と数の弁別

3 数学(金銭の使い方)

すごろくシート

「郵便局カード」と「買い物カード」

すごろく遊びをしながら、金銭を適切に出したり、お釣りを数えて受け取ったりすることを学習する教材です。
サイコロを振り、出た目の数だけ進みながら、赤マスに止まったら「郵便局カード」を引き、裏面の金額を郵便局から受け取る。青マスに止まったら「買い物カード」を引き、裏面の金額を郵便局に支払うことを繰り返し、ゴールに着いたときの残り金額で順位を決めます。

4 数学(買い物学習の事前学習)

□ 3000円で買える組合せを考えよう。

水中メガネ 1520円	マグカップ 950円	折りたたみいす 1840円	飼育ケース 660円	魚採りアミ 810円

答え()

買い物学習の事前指導として、予算内で必要な物品を購入できるよう、購入する物品の合計金額の概算を考える学習です。

自立活動の指導

1 気持ちの表現

今のあなたの気持ちを10段階で表現してみましょう。

①私は今、イライラしています。	低い←	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	→高い
②私は今、不安な気持ちです。	低い←	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	→高い
③私は今、ワクワクしています。	低い←	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	→高い

私が **イライラ** してるのは **昨日、ねるのおそくなってしまい、朝おきられなくて、お母さんにおこられてきた** からです。

気持ちの聞き取りシート①

さっき怒っていたのは

- A君がうるさかったから
- おなかが痛かったから
- ③ B君が見てきたから**

気持ちの聞き取りシート②

この実践は、自立活動の内容、「心理的な安定」と「コミュニケーション」を関連付けて設定しました。

2 コミュニケーションツールの活用

先生	今は一人が良い	近すぎる	その他
先生	いっしょが良い	見られるのがいやだ	<あいがわるい
先生	やるかなやみ中	こわがった	むり
先生	ちがう話にして	言いたくない	けんがい
先生	もう少しひがえめにして	教えてくれない(いじわる)	いたい
くん	その話はやめて	言ったらおこられる	ねむい
さん	どう言ってもわからない	伝えてほしい	トイレ
くん	そのことにはかれないで	よんでほしい	ママ
くん	ありがとう	みつう	
さん	ごめんなさい	自信がない	+
くん	うれしい	わからない	-
くん	ちゃんとして	どっちでもよい	男
さん	へたれ	めんどろくさい	女

コミュニケーションボード

話すことに苦手さがある生徒が、自分の気持ちを相手に伝えやすくなるように、よく使う言葉や、これから獲得してほしい言葉を一覧にし、生徒が言葉を選んで使えるようにした教材です。

生徒が自分で携帯できるサイズのシートも用意し、どこでも、誰にでも伝えられるようにしました。

この実践は、自立活動の内容、「心理的な安定」と「コミュニケーション」を関連付けて設定しました。

3 生活習慣の形成

	月 日 ()			
今日の様子	よい ふつう 悪い			
今日の体重	kg			
1日の食事	朝ごはん	大盛り	中盛り	小盛り
	給食	大盛り	中盛り	小盛り
	おやつ	大盛り	中盛り	小盛り
	夕ごはん	大盛り	中盛り	小盛り
排便確認	出た(やわらかめ 普通 固め)			出ない
トイレの回数	回			
保健室の先生から				
保護者から				

1日の様子カード

食べるのが好きで、食事の量を自分でコントロールすることが難しい生徒が、体調を自分で把握し、生活習慣を改善できるようにしたシートです。

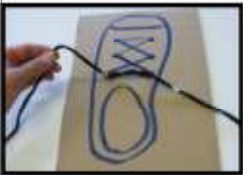



生徒は、毎日の体重の記録をiPadに入力し、グラフ化することにより、自分の体調の変化に気付くことができるようになりました。


この実践は、自立活動の内容、「健康の保持」と「心理的な安定」を関連付けて設定しました。

生徒は養護教諭や保護者などにほめられることを楽しみに取組を継続することができ、肥満傾向が軽減されました。

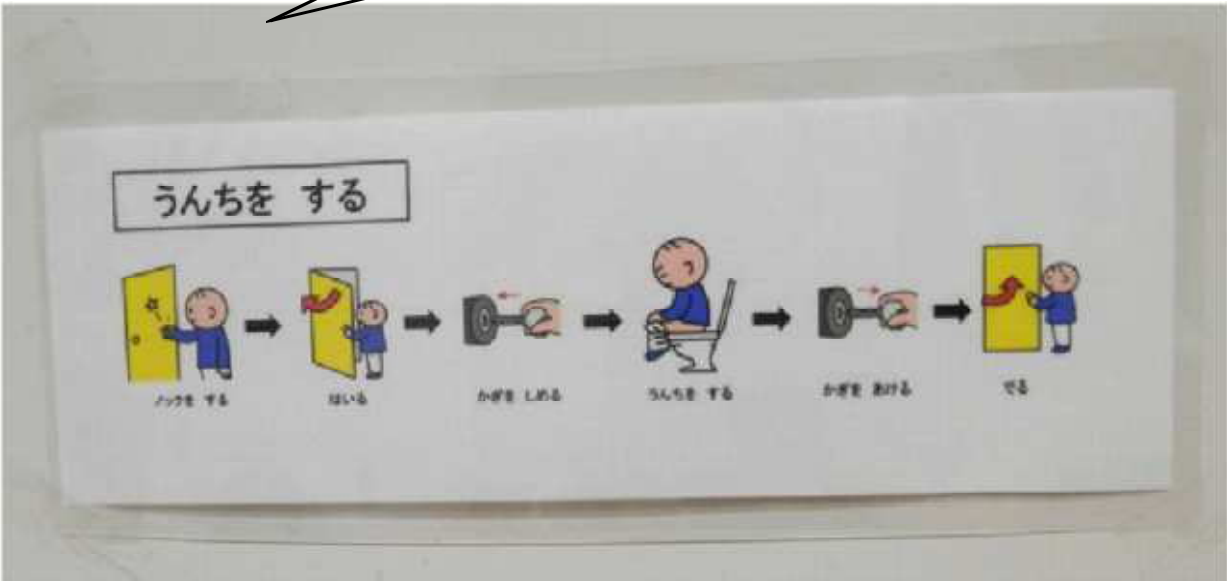
日常生活の指導

むす かつ
ちょう結びの やり方

	① ひだりて 左手で、 きいろ テーフを持つ。
	② きいろ テーフを あ 合わせて持つ。
	③ みぎて 右手で しろ テーフを持つ。
	④ きいろ テーフの上に しろ テーフを まわ 回す。

	⑤ した 下のまるの中に しろ テーフを い 入れる。
	⑥ ひだりて 左手で しろ 白いテーフのひもを ひ っぱり、 みぎて 右手で きいろ 黄色いテーフのひもを ひ っぱり。
	⑦ できあがり 。
	

日常生活で必要となる動作の手順を確実に定着させるための手順書をカード化して、トイレの壁へ掲示した教材です。
本教材は、「戸を閉める」、「カギをかける」という手順を定着させることを目的とした指導に活用しています。



トイレ内壁への掲示(大便の手順の表示)(小学校低学年)

フラス1 進路指導

～児童生徒の実態に応じた適切な進路指導を行うために～

1 基本的な考え方

特別支援学級においては、一人一人の障がいの状態及び発達の段階、特性等を十分に把握した上で、進路学習、産業現場等における実習や進路相談を通して自立的に生活する力を育てるとともに、進路先の自己決定に向けての助言や援助を組織的・継続的に行う必要があります。

2 ポイント整理

学級担任は、児童生徒の障がいの状態や発達の段階を把握することはもとより、本人のよさや得意なこと、将来に向けて学びたい内容、本人の将来に対する希望等の理解に努めます。進学する学校の教育課程に照らすとともに、本人・保護者の心情に寄り添った進路指導を進めることが必要です。

【小学校特別支援学級の場合】

- 一人一人の児童の、卒業後の生活につながる自立的な力（身辺処理、通学等）や、学力が向上する教育活動を計画的に行う。
- 将来の進路について保護者と共通理解を図る。

【中学校特別支援学級の場合】

- 進路に関する情報（卒業生の社会生活の状況等）を保護者や本人に知らせる。
- 学級担任が本人の将来に向けて学びたい内容など希望等を踏まえ、将来の展望を明らかにして、主体的な進路選択ができるように一貫した指導や支援を行う。
- 高等学校・特別支援学校高等部進学、就職等、生徒の卒業後の進路を見通して、3年間の年間や月間等の進路指導計画を立てて実施する。
- 実習先、進学先、就職先等の進路に関する情報を近隣の特別支援学級や関係機関と連絡を取り合いながら収集し、活用する。
- 卒業生への卒業後の支援を充実するために、職場訪問や、学校行事への招待等を積極的に行う。

ワンポイント 高等学校、特別支援学校高等部の特徴を理解する

特別支援学級の担任は、高等学校と特別支援学校高等部の教育課程や学校生活について理解した上で、一人一人の能力や適性に応じた進路指導を行うことが大切です。

1 高等学校

高等学校では、中学校における教育の基礎の上に、心身の発達及び進路に応じて、高度な普通教育及び専門教育を施すことを目的とし、義務教育として行われる普通教育の成果を更に発展拡充させ、豊かな人間性、創造性及び健やかな身体を養い、国家及び社会の形成者として必要な資質を養うことなどを目標とした教育の展開が行われています。

2 特別支援学校高等部

特別支援学校高等部では、知的障がい者である生徒に対して、義務教育の基礎の上に立ち、基礎的・基本的な知識・態度・技能を身に付ける指導を行いつつ、将来の進路を見据えながら、一人一人の能力・適正等に応じて、個性を伸張する教育の展開が行われています。

進路指導計画を作成・活用した実践例

- 4月、本人や保護者の進路に関する情報を集めながら、進路指導計画を作成します。
- 進路指導計画に基づき、校内の教職員と連携し、希望する進路に対応した教科等の指導を行います。
- 定期的に進路希望調査を行い、進路指導計画を適宜加筆・修正します。
- 本人が将来に向けて学びたい内容や、将来に対する希望を踏まえ、生徒や保護者が主体的に進路選択できるよう、進路に関する情報を集めて提供します。
- 卒業した先輩を招き、卒業後の進路の実際について話を聞く機会をもちます。
- 定期的に保護者会を開き、進路先や社会に出てからの福祉サービスなどに関する説明をします。
- 特別支援学校高等部や高等学校の学校祭や学校見学、体験入学等に本人や保護者とともに参加します。
- 12月、特別支援学校高等部入学者選考や高等学校入学者選抜に向けた準備を行います。

<中学校の進路指導計画例>

※反転文字は共通

学期	月	進路指導計画		対象学年			備考
		知的障がい特別支援学級	自閉症・情緒障がい特別支援学級	1	2	3	
1	4月	進路指導計画の作成		○	○	○	年間を通して指導 年間を通して指導 計画、連携の確認
		○生活単元学習の指導	○教科別の指導	○	○	○	
		○作業学習	○自立活動の指導	○	○	○	
		第1回進路希望調査(中学校及び高校卒業後の進路)		○	○	○	
	関係機関との協議				○		
	5月	○職場開拓			○	希望調査を参考 累積記録簿	
		学級指導(自分の進路、寄宿舎の生活等)		○	○		○
3者進路相談会		○	○	○			
個別の進路指導表の作成		○	○	○			
6月	○第1回現場実習			○			
	○保護者現場実習見学			○			
7月	○職場見学			○	卒業生やその保護者から学ぶ		
	○特別支援学校への教育相談			○			
進路学習(先輩の話を聞く会)		○	○	○			
保護者会(進路及び福祉に関する学習会)		○	○	○			
2	8月	○卒業生の職場への訪問		○	3年間で計画的に学ぶ		
		○高等部、施設等の見学 (学校祭、学校見学など)	○高等学校の見学 (学校祭、学校見学など)	○		○	
	9月	○特別支援教育進路指導協議会への参加	○高等学校との協議	○	○	3者進路相談会等で保護者へ情報提供	
		第2回進路希望調査			○		
		3者進路相談会(希望する高等学校や、高校卒業後の進路)			○		○
	○職業適性検査				○		
10月	○第2回現場実習			○	保護者会との連携		
	○保護者現場実習見学	○体験入学	○	○			
11月	○保護者高等部、施設等見学			○			
	○現場実習反省会			○			
3者進路相談会(進路希望先の決定)				○			
12月	進学、就職、施設関係受検簿書類の作成				○	内容、期日の確認 個別指導	
	○就職、入学者選考の準備	○高等学校入学者選抜の準備			○		

参考となる資料について

道教委・道立特別支援教育センター関係

資料名	実態把握	指導計画	教育課程	教材教具
○特別支援学級担任のハンドブック（改訂版） http://www.tokucen.hokkaido-c.ed.jp/?action=common_download_main&upload_id=284	○	○	○	○
○PEARLS OF WISDOM http://www.tokucen.hokkaido-c.ed.jp/?action=common_download_main&upload_id=193	○			○
○校内研修プログラム http://www.tokucen.hokkaido-c.ed.jp/index.php?key=bb93f2sva-167#_167	○	○		
○個別の指導計画「A to Z」 http://www.tokucen.hokkaido-c.ed.jp/?action=common_download_main&upload_id=186		○		
○個別の指導計画の作成と活用 http://www.tokucen.hokkaido-c.ed.jp/?action=common_download_main&upload_id=185		○		
○研究紀要 第23号 自閉症・情緒障害特別支援学級における自立活動の指導に関する研究 http://www.tokucen.hokkaido-c.ed.jp/?action=common_download_main&upload_id=292	○	○		
○研究紀要 第21号 「個別の教育支援計画」の策定と活用 http://www.tokucen.hokkaido-c.ed.jp/?action=common_download_main&upload_id=230		○		
○研究紀要 第20号 通常の学級における特別な教育的支援の必要な児童への学習指導の工夫 http://www.tokucen.hokkaido-c.ed.jp/?action=common_download_main&upload_id=227	○			○
○自閉症の特性に応じた教育をめざして http://www.tokucen.hokkaido-c.ed.jp/?action=common_download_main&upload_id=208		○	○	○
○特性に配慮した教育課程編成のために http://www.tokucen.hokkaido-c.ed.jp/?action=common_download_main&upload_id=216		○	○	
○交流及び共同学習を進めるために http://www.tokucen.hokkaido-c.ed.jp/?page_id=45			○	
○みんなと育む（改訂版） http://www.dokyoj.pref.hokkaido.lg.jp/hk/tkk/h24-25sokisien.htm	○	○		
○おおきくなあれ！ http://www.dokyoj.pref.hokkaido.lg.jp/hk/tkk/h24-25sokisien.htm	○	○		
○みんなで力を合わせる http://www.tokucen.hokkaido-c.ed.jp/?action=common_download_main&upload_id=57	○	○		
○通常の学級に在籍する子どもたちのために みんなに分かりやすい授業づくりのポイント！（平成26年度版） http://www.dokyoj.pref.hokkaido.lg.jp/hk/tkk/sugunidekiru.htm	○			○

独立行政法人国立特別支援教育総合研究所

<http://www.nise.go.jp/cms/>

○インクルーシブ教育システム構築支援データベース

○インターネットによる講義配信

「特別支援教育研修講座 基礎編」(特別支援教育の基礎理論、各障害種別教育論 など)
各障害等の基礎的な内容を体系的・計画的に整備したもの

「特別支援教育研修講座 専門編」(総合的・横断的内容、各障害種別教育に関するテーマ など)
各障害等の基礎的な内容をさらに深化したもの

○ 研究成果・刊行物

○ 発達障害教育情報センター

※ 国立特別支援教育総合研究所のWebページでは、上記のほか、多くの研究資料が閲覧できます。

個別の教育支援計画の作成しましょう！

校内委員会において、通常の学級に在籍する子どもに特別な教育的支援を必要とすると判断した場合、本人・保護者の同意のもと、一人一人の教育的ニーズを把握し、医療、保健、福祉、労働等の関係機関との連携を図りつつ、「個別の教育支援計画」を作成し、乳幼児期から学校卒業後までの一貫した教育的支援を行っていくことが大切です。

(様式〇)

個別の教育支援計画

～就学移行期用シート～

氏名	北 海 太 郎	性別	(男)・女	生年月日	平成〇〇年〇〇月〇〇日
作成者	保護者	北 海 一 郎 (父)	在園名	〇〇幼稚園	
	学校	〇 〇 〇 (〇〇市立〇〇小学校)	就学先	〇〇市立〇〇小学校	
	教育委員会	〇 〇 〇	作成日	平成〇〇年〇〇月〇〇日	
	関係機関等	〇 〇 〇 (発達支援センター)	修正日	平成〇〇年〇〇月〇〇日	

★本人・保護者が一貫した支援の見通しをもつことができます！

- 関係機関や学校等が共に支援内容を考えることで、将来にわたっての支援の見通しをもつことができます。

★保護者が支援者と共に子どもの成長を確かめることができます！

- 子どもの育ちを一步一步記録することで、支援者と共に子どもの成長を確かめることができます。

な	将来の夢	保護者の願い
	・就職して、自立した生活を営んでほしい。	
就学先	〇〇市立〇〇小学校 (通常の学級)	
学 校	・自分の思い通りならなくても、パニックを起こさずに、落ち着いて学習に取り込んでほしい。	
生 活		

●就学前における支援状況 (平成〇〇年〇〇月現在)

課 題	支援機関
① 言葉の発達	発達支援センター 言語聴覚士
② 集団生活の適応	〇〇幼稚園 個別支援士
③ 発達の段階等の把握	〇〇幼稚園 個別支援士 〇〇市立〇〇小学校 個別支援士 発達支援センター 発達支援士

●教育的ニーズの選定

- 本人の言語発達の状態やこだわりの強さなどの特性を踏まえた学習環境を設定するなどして、学習への意欲を高め、基礎的・基本的な学力を身に付ける。
- 担任及び支援員の支援を受けながら、友だちと一緒に活動する経験を重ね、自己肯定感を高めながら、円滑な人間関係や社会性を培う。

●就学先の学校における合理的配慮の内容 (平成〇〇年〇〇月〇〇日作成)

観 点	支 援 の 内 容	備 考
教育内容	学習上又は生活上の困難を軽減。「適切な対人関係の構築」や「言語発達の遅れや異なる学習内容の習得の困難」	・個別の指導計画の作成 ・支援員と連携した指導
教育方法	学習目標を達成し、必要に応じて写真や図画、模型、	・変更・調整の内容を個別の指導計画に明記
	活動予定表	・支援員による写真や図画等の提示
支援体制	専門性のある指導体制の整備	・予定表の作成は家庭にも協力を依頼
	児童や教職員、保護者等への理解啓発を図るための配慮	・全教職員に周知
施設・設備	校内外環境のバリアフリー化	・専門家からの助言内容を
	発達、障がいの状態及び特性等に応じた指導ができる施設・設備の配慮	・指導方法等について〇〇市立〇〇小学校から助言を受ける。
施設・設備	災害時等の支援体制の整備	・適立特
	校内外環境のバリアフリー化	・周遊の活動
施設・設備	発達、障がいの状態及び特性等に応じた指導ができる施設・設備の配慮	・災害時において校
	災害時等への対応に必要な施設・設備の配慮	・学校の
施設・設備	校内外環境のバリアフリー化	・各教室
	発達、障がいの状態及び特性等に応じた指導ができる施設・設備の配慮	・興奮が収まらないときは、クールダウンの部屋に移動させ、心を落ち着かせる。
施設・設備	災害時等への対応に必要な施設・設備の配慮	・体育館にパーテーションを設置する。
	災害時等への対応に必要な施設・設備の配慮	・本人が好み図書や玩具を常備する。
施設・設備	校内外環境のバリアフリー化	・支援員が対応し、その状況を担任等と連絡帳に記載
	発達、障がいの状態及び特性等に応じた指導ができる施設・設備の配慮	・教育委員会が整備
施設・設備	災害時等への対応に必要な施設・設備の配慮	・図書等は家庭で準備
	災害時等への対応に必要な施設・設備の配慮	

★必要な支援や環境づくりの工夫等が引き継がれていきます！

- 必要な支援や環境が次の校種や進路先に引き継がれていきますので、保護者が何度も同じ説明をしなくて済みます。

★個別の指導計画の作成につながります！

- 個別の教育支援計画を作成することで、その一部を個別の指導計画とすることができます。

- ※ 管内や市町村で個別の教育支援計画の様式を示している場合は、その様式を参考にしてください。
 - ※ 個別の教育支援計画の作成に当たり、本人・保護者の同意が得られない場合は、本ガイドブック18ページ記載の「校内研修プログラム」を活用した研修を行い、個別の教育支援計画の利点を丁寧に伝えるなど、保護者の理解を得られるように努める必要があります。
- なお、北海道教育委員会としても、各市町村を通じて、就学前の早期段階から保護者に対し、個別の教育支援計画の意義について意識啓発を推進していきます。

平成25年度
特別支援学級リーダー教員研究協議会
出席者

江別市立江別第二小学校	梅 津 俊 一
小樽市立入船小学校	マツノティ ひろみ
黒松内町立黒松内小学校	佐々木 ちどり
伊達市立伊達西小学校	中 井 麻樹子
白老町立白老小学校	大河内 邦 子
苫小牧市立北光小学校	吉 川 直 恵
新ひだか町立山手小学校	前 田 真 弓
函館市立湯川小学校	榊 田 慎 司
上ノ国町立河北小学校	安 里 朗
旭川市立末広小学校	笹 信 勝
愛別町立愛別小学校	吉 澤 明日香
留萌市立東光小学校	中 野 恵
稚内市立稚内南小学校	戸 花 里和子
訓子府町立居武士小学校	二階堂 美由紀
帯広市立柏小学校	田 中 善 久
幕別町立幕別小学校	佐 藤 貴 光
釧路市立釧路小学校	中 根 照 子
標茶町立標茶小学校	小 田 真 市
標津町立川北小学校	福 田 好 美

平成26年度
特別支援学級リーダー教員研究協議会
出席者

岩見沢市立明成中学校	松 島 あすか
美瑛市立南美瑛中学校	阿知波 慶 英
滝川市立明苑中学校	渡 邊 一 正
北広島市立東部中学校	秋 田 真知子
黒松内町立黒松内中学校	大 橋 恵
小樽市立松ヶ枝中学校	山 田 暁 広
室蘭市立翔陽中学校	森 島 忠
苫小牧市立啓北中学校山なみ分校	柴 田 陽 介
むかわ町立鷓川中学校	西 智 之
洞爺湖町立虻田中学校	三 松 千 香
浦河町立浦河第一中学校	鈴 木 かなえ
函館市立桐花中学校	中 条 淳 子
八雲町立野田生中学校	谷 内 雄 樹
上ノ国町立上ノ国中学校	高 橋 宗 明
旭川市立明星中学校	岡 田 直 人
美瑛町立美馬牛中学校	山 根 正 士
苫前町立苫前中学校	落 田 千 晶
稚内市立稚内南中学校	平 塚 貴 広
大空町立女満別中学校	國 分 さゆみ
帯広市立南町中学校	阿久津 由 香
大樹町立大樹中学校	加 藤 哲 矢
釧路町立別保中学校	山 神 かおり
別海町立中春別中学校	森 あゆみ

「4ステップ（プラス1）」の作成に際しまして、上記の皆様から、資料提供等をいただきましたことに、感謝申し上げます。

平成26年度特別支援学級担当教員サポート体制事業
北海道教育庁学校教育局特別支援教育課学校教育指導グループ
〒060-8544 札幌市中央区北3条西7丁目 道庁別館
電話 011-204-5774
Fax 011-232-1049